

第4章

策定までの検討の経過

4-1 芦屋市上下水道事業経営審議会

4-1 芦屋市上下水道事業経営審議会

審議会は、芦屋市の公営企業（下水道、水道）に関する運営管理の方針や財政に関することについて調査・審議を行っています。審議会の委員は、学識経験者や各種団体などからの推薦及び公募の市民により構成されています。

令和3年度（2021年度）は、本ビジョンの策定に向けて、ビジョンの内容や方向性などについて幅広く意見交換をしていただきました。

委員

氏名	職業・役職等

検討経過

	時期	課題等
第1回	2021年*月*日	現状と課題
第2回	2021年*月*日	ビジョン2031の体系案
第3回	2021年*月*日	ビジョン2031の骨子案
第4回	2022年*月*日	ビジョン2031の素案

用語の解説

P.3

1 下水道普及率

処理区域内人口 ÷ 行政区域内人口 × 100 総人口に対して下水道を利用できる人口の比率。

P.8

2 標準耐用年数

施設がその本来の用途に使用できるとされる標準的な年数。

3 下水道ストックマネジメント計画

下水道施設の状況を点検・調査によって客観的に評価し、長期的に予測しながら、改築・修繕を計画的かつ効率的に実施し、下水道施設を管理することを定めた計画。

4 改築

更新または長寿命化対策により、所定の耐用年数を新たに確保するもの。

①更新：既存の施設を新たに取替えること。

②長寿命化対策：既存の施設の一部を活かしながら部分的に新しくすること。

5 修繕

老朽化した施設または故障もしくは損傷した施設を対象として、当該施設の所定の標準耐用年数内において機能を維持させるために行われるもの。

6 汚水

人の消費生活または生産活動を行うことで生じる排水のこと。具体的には、生活雑用水、水洗便所からのし尿、工場や事業所から排出される工場排水などをいう。

P.9

7 浸入水

晴天時に流入する「常時浸入水」と雨天時に流入する「雨天時浸入水」に分類される。「常時浸入水」は、日常的に地下水や水道管などから下水道管路の損傷部へ流入する。「雨天時浸入水」は、分流式下水道の污水管に流入するはずのない雨水の流入により下水が溢れてしまい、地域や処理施設に被害をもたらす。また、侵入水に対しては、下水道使用料が発生しないため、この割合が大きいと下水道経営に深刻な影響を与える。

P.10

8 目標耐用年数

改築の実績等をもとに施設管理者が目標として設定する耐用年数。

P.12

9 降雨強度

瞬間的な雨の強さを1時間あたりに換算した雨量（mm/h）。

10 雨水浸透柵や雨水浸透管

周囲に碎石を敷き、集水した雨水をその周囲から地中に浸透させる施設。総称して、雨水浸透施設という。

11 雨水貯留施設

流出した雨水を集水して別の場所に貯留し、下水道や河川などへの雨水流出を抑制するための施設。

P.13

12 雨水流出抑制施設

雨水を浸透や貯留することにより、下水道に流入する雨水量を減少させ、下水道に短時間で大量の雨水が流入しないようにする施設。

P.14

13 取付管

公共汚水柵や公共雨水柵で受けた汚水や排水を本管へ流す管路。

P.15

14 BCP

Business Continuity Planning（業務継続計画）の略。自然災害など、予測せぬ事態が発生した時でも、業務を継続できるようにするための方法・手段を定めた計画。

P.16

15 高度処理

下水処理において、通常行われる高級処理（微生物の反応を利用して、生物学的に下水中の有機物を除去する方法）で得られる処理水質以上の水質を得る目的で行われる処理。高級処理では十分に除去できない窒素，りんなどを多量かつ確実に除去する方法。

16 合流式下水道緊急改善計画

公共用水域への影響を軽減させることを目的に、早急に合流式下水道の改善を図るもの。

17 スクリーン

下水中に含まれている夾雑物（ごみなどの固形物）を除去するために雨水吐き室に設置する施設。設置することで、雨天時の放流水域の汚濁防止に役立つ。

P.18

18 企業債

地方公営企業が施設の建設などに要する資金に充てるため、国などから借り入れる長期借入金の総称。

19 減価償却

最短2年以上の長期間にわたって使用できる固定資産（建築や構築物）の取得に要した支出（設備投資）を、その取得年度において全額を支出費用にせず、取得資産の耐用年数の間に少しずつ費用化していく会計処理のこと。

20 企業債の繰上償還

企業債償還金とは、企業債の返済金のことであり、元金償還金と支払利息から構成される。繰上償還とは、当初設定されていた償還期日より前に、企業債を償還すること。

P.22

21 LCC（ライフサイクルコスト）

施設・設備における新規整備，維持，改築などを含めた生涯費用の総計。

P.23

22 耐震診断

既存の施設で耐震性を診断するもの。

23 ヒートポンプ

処理水の熱を利用して、冷暖房を行う装置。

24 汚水私費・雨水公費別負担

下水道事業は、雨を排除する雨水処理事業と汚水を綺麗にする汚水処理事業があり、原則として自然現象の雨水排除は公費（税金）負担とし、汚水処理は受益者負担の観点から私費（使用料など）負担するもの。

25 不明水

下水道施設に流入する、排出元が不明な雨水や地下水のこと。

26 維持管理費

管路及び処理施設の機能の維持のために必要となる、点検・調査，修繕や処理施設の運転管理などに要する費用。

27 有収率

汚水処理水量のうち使用料徴収の対象となる有収水の比率。有収率が高いほど、使用料徴収の対象とできない不明水が少なく、効率的であるといえる。

P.36

28 ハード対策

下水道の要求機能を確保するために、個々の施設の構造面や設備などの耐震化や耐水化を行うこと。

29 ソフト対策

下水道の要求機能を確保するために、ハード対策の実施に関する計画策定やマネジメント等による対策をいう。

P.39

30 緊急輸送路

大規模な地震などの災害が発生した場合に、救急活動や物資輸送を円滑に行うために、県や市などが事前に指定した道路。

P.41

31 雨水吐き室

合流式下水道において、雨天時にある一定量までの下水は下水処理場へ流し、一定量以上は分水し、処理可能量以上の雨水を公共用水域へオーバーフローさせるための施設。

